

キング・オブ・キングス (1961)

KING OF KINGS

メディア 映画

ジャンル ドラマ 歴史劇

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 165分

初公開日 1961/12/15

公開情報 MGM

【解説】

27年のセシル・B・デミル監督によるキリスト伝のリメイクだが、ノー・スター配役で、監督レイは極力これみよがしを避け、共感できる作品に仕上げている。序曲、休憩中の間奏、後奏と当時の大作映画のスタイルに則ったM・ローザの音楽が立派だが多少やかましいのと、唯一名の通ったキャストのR・ライアンの洗礼者ヨハネとヘロデ王とサロメのからみに若干のハリウッド的な彩りが見られるだけで、イエス受難の後段など、レイの力のこもった演出には、それまでの聖人伝のパターンを乗り越えようとする意欲が満々にみとれる。BC73年のポンペイウスのユダヤ神殿襲来に端を発し、必ずしもイエスの生涯に焦点をあてていないわけではない前段は、散漫には違いないが、彼をいきなり神の子と祀り上げない、その抑制された調子が後半を見応えあるものにする。主演のハンターはイエスを演じるには大分逞しい風貌だが、瞳の美しさが印象的。数々の奇跡についても“癒し”の側面を強調したのは正解で、その部分や最後の復活の演出にレイは真骨頂をみせる。イエスの代わりに助かる盗賊バラバを、叛乱軍のリーダーとして描いているのは硬派の脚色者ヨーダンの創意だろうが、これも作品にリアリティを盛っている。ゴルゴダの丘を十字架を背負ってイエスが往く場面を、ひたすら俯瞰（神の目）から写すのも、人間イエスを巧みに表現して秀抜だった。ナレーターはオーソン・ウェルズ。

【クレジット】

監督	ニコラス・レイ	Nicholas Ray
製作	サミュエル・ブロンストン	Samuel Bronston
脚本	フィリップ・ヨーダン	Philip Yordan
撮影	フランツ・プラナー	Franz Planer
	ミルトン・クラスナー	Milton Krasner
音楽	ミクロス・ローザ	Miklos Rozsa
ナレーション	オーソン・ウェルズ	Orson Welles
出演	ジェフリー・ハンター	Jeffrey Hunter
	ロバート・ライアン	Robert Ryan
	シオバン・マッケンナ	Siobhan McKenna
	ハリー・ガーディノ	Harry Guardino
	リタ・ガム	Rita Gam
	リップ・トーン	Rip Torn
	ヴィヴェカ・リンドフォース	Viveca Lindfors
	ロイヤル・ダーノ	Royal Dano